中村俊定文庫
文庫 18
972

荻鳥文庫

浪華五春莊井肩選

天文部 集中終三傚傳名物

日

はる山よりいでうるまるる　松大

秋の夕ぬれ沼よりいでうるの海　丹波　関行

松風よりけうるみのの月入よりう　敦賀　仙芝

実伝を出のの月　木海

出でうるうる古さるめきーまるる　因幡　雷海

重ねうに初うるもるる迄をまる月　星溪

うるうるあれハ茶よりなるうる春月　井肩

村俊定文庫

本町より酒屋町へ出る　みな巍巵
江を隔てゝや青かりけん　嘯山　起雄
青の月海の沉て加らんとす　ハりて　素相
月おろし紙をゆし西之江　き時　祥禾
夏の初より出てうつる紙月　あ仮　拙朗
小原風もえうつる山赤の家の　子雄
米つきよ夜なへユや多の月　松生
秋月
よ江戸の白ひかりの杜の月　ヲハり　杜生
秋の月ちうえ和ちうえ和ちう　紙心
恋の国より恋ちうと蕎の月　ヲハり　迷人

只の夜となりてうつる峰の月　教賀　五鼎
秋うつる動ぬよれハ月ぬれ　士仲
名月
名月やうつるよりはるかに　ヲハり　梅雨
名月や文うんはの上　方珠
ひい月や加ちうせハ波の沈　扇器
月を毎ル松はしまぬうつる　赤堤
寺月の
いつうつるもの中やの月　字仙　李起
后月
つる鶴みうへうもうつる后の月　井左
名月
名月あ中うに出ハ又をー　倚仙　義六
不中の月清ちりー寺や戸ちりー　史好

寒月や下りみおろす[illegible]　雲弓　西柳

星迄[illegible]　備中　要和

七夕や郡の町を篠の葉　伊丹　柳一

星の影とゝまるかなる更行　芳時　鶴風

陽炎　陽炎や柿本の丈を立ねる　西柳

うけるふの沈さまぬ沈ぐ　西柳　河柳

雲

雲西の郡

山の端のかさなりや雲の時　和泉　俳史

雲　雲はたゝ出る峯くもの峰　丹波　夏皐

八重かすみ小田の古水まさりけり　玉嶋

雨

蛙蛙のつるいとまもせきりなる　実名　田人

うとましれよりもりうとる山　西波　文宗

初雨をもりやはの時松より　浪花　几友

鞠つよれをの侍や朝うすこ　備中　古井

うらいきは萩うる雨の雲　出羽　湖雲

田みの中の松さんてはかとゝ　雲弓　夏風

鳥松よりはをうく出る雨　摂州　玉林

田うえゆる姫かうえやまきあ　備中　要和

きよりよりて雲の雲きやまる　浪花　雲雄

きの雨簾おうえぬ板まで　池田　吳光

くる日に雀のくゞりゆるなり　ハリマ 梅旭
来る日もゆくへつくしや江戸の春　東拙
はるゝ日は影のうすき雀かな　相馬 東枯
降おしみ人うし出来るまつの日　佐渡 東家

五月雨

一ふしゝ日や蘆まかる小蝸牛　五英
町筋も明ゝ夜もり戸ゝる　江 潮暁
五月雨や半ひ深の隅田川　リ州 士明

夕立

夕立て水鷄の足みかくれけり　近柳女
十筋まゝ日まゝくいうてまゝ夕立ぬ　春思

時雨

俎板にしれ日うさして初しくれ　敦賀 雲花

いつのまにしぐれ跡さへ松の雪　加賀 園来
梅の穂に明くれも覚しくれ　木ヒ 宗高
なかにしゃあく菊に丘の茶　甲斐 百二
むらさめ推の木の実ハ夕しくれ　近柳女
初しぐれ酢の香みなくく成にけり　近江 孤郷
堅の板乃ちる雪して初しくれ　井眉

風

風雲之郎
春しらぬ小草に見ゆる春の風　池田 呉光
近つまのやうに明るり夜の風　甲斐 才馬
春風の松あちこちて松の聲　相馬 寿松

[illegible]より出[illegible]不二の山　[illegible]島曙

[illegible]風や毎りかゝる[illegible]　紅之真

[illegible]や関を乾[illegible]川　イセ　魯神

涼風

孤[illegible]の風[illegible]　アハ　茂峰

[illegible]風や[illegible]奥やたれ[illegible]の[illegible]　一阿

[illegible]風[illegible]　[illegible]　雪花

秋風

秋の風[illegible]出[illegible]　其磬

[illegible]出[illegible]　雪の茅　松雄

風

[illegible]の中[illegible]　五鳥

こゝ[illegible]月の[illegible]　井扇

雪

[illegible]や呼[illegible]　[illegible]耳破

風や[illegible]　[illegible]佛水

[illegible]なる水よりなる[illegible]の雪　ヨハリ　風[illegible]

[illegible]重[illegible]ハ[illegible]　士的

雪[illegible]や　[illegible]のよけ[illegible]水の[illegible]　今は　如故

初雪[illegible]　[illegible]　程川

雪[illegible]や[illegible]士[illegible]　一[illegible]

[illegible]ぬく[illegible]　[illegible]　其[illegible]

[illegible]の重　[illegible]ありよ夜に[illegible]　方[illegible]

的[illegible]雪[illegible]　仙タイ　二

初雪見参

初雪降日羣花ちるぞうく

淑のくるとあつ一雪もよ杜蓼

ゐて蓼をうせよ雪の人 ハリー 翠柳

白雪のまつまし雪の野ちく 上ち実 幸白

ゐるねのやあのきく雪の松 色白 里童

十人の猿をろくくもよ空 杉良

大うれをうれう峰うるる 水口 敲美

朝雪や麻の湖ゐと浜山めく 蓼ち 玉楚

れくるのうくきのひ車く 〃 示矢

紫みやとりふむつう春のつ 宝治 秋丈

霙

霜

露

[illegible]　井肩

地之部

山

日よりのきしまとれさくくまの山　早雙　漫々

粮のなく所のちく春の山　敦賀　杉夕

ちくのきよひくとにいたる谷の山　ヨハリ　頭大

海原の地さかはしまやの　岩国　芝雪

二タまくうまくまくうまくまの山　ちくら　祥禾

海

まの海原に流てとまる届く　井肩

川

日の原和歌まねまの川　辺口　里壺

水

あしたのの四方はうは清水ぞ　〃　千氣

[illegible]　掘土

清水うつなてうるとうるぐ　いつ波　霧味

なるいうとうの水のあうぐ　尾道　花時

不二の根をとすまた軒をれの水　号湘

まつとさやかに氷とまの名れる　名和川

廣澤よりとうとうとうぬ氷うま　西波　柳苔

歳時之部

春

[illegible]　活　金菜

松とかれとうとうとう宮の夾　俳好　芝玉

紀の貝とうとうとう時ーや花の夾　柳雄

行春の月ものさびまされる　百樹
川端の丁子入見うるまぢ宵　月影　安藤重方更
舟のかぢをいそぐ小川やまの宵　仙書　之江
春ふかみ新く麦の青　重郎
ほとゝぎすのかゝる入江の舟　曙豊　宗
夕ぐれの一雨ぬる葉　秋湖　俊彼
さゝ竹を松板ぶきの家　霧湖
美人や紙のなりよまゝゆく　雨柳　宗
朝ぬるゝ四季の形　桂美　笹山
古さゝ笠ぬるゝ人まの入る　鬼羽　エト

七

ゆもや柳も柳もはゝ　艾　艾
春ゝろひゝゝ足ゝやまの浦の雲　芙光　佐田
五月や紅の菖蒲　松雨　伊丹
正月やふうゝゝゝゝ蓬の蓬　柳一
賣初　うゝゝ初やゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　萬頃　サヌキ
きゝ紀　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　蓬　蓬
出代　出代や何ゝゝゝゝゝゝゝゝ　五時
雛　雛ぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　涼雨
汐干　紅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　村田紀　因分
夏　初夏やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　坊價　浜

ちのふうきあの尾うつくしての川　鶴峯

四月　水なにはなれるうゐ四月だ　敦賀　由来

夏炉　ふう夏炉三月と人の年のもり　吉更

五月　雨の杉ゝ紀阿も煙年くれ　三霞

ゆ菖蒲やゝ五月の山の色　浜　艾亦

菖蒲湯　菖蒲湯を一人おもうくまのあ　敦賀　一馬

懸　懸立ゝ松ゝ懸しゝ月に　二朝

六月　六月の戸口ゝ懸ぬ蝿の家　伊勢　梅里

田植　山道や雲の中まで田植ゝ　敦賀　文松

涼　夜やすゝしかゝゝ戸ゝ涼の節　彦根　義六

秋

夕ゝゝ秋の不の門まで人ゝ形　一色

すゝゝゝ秋ゝうゝゝ秋ゝ雲の峯　浜　舟

涼風や只更やゝ秋ゝの音　一陽

ゝむ秋を拾ひ入るもわかゝ　ワカサ　蛙兄

涼ゝゝゝの歌うゝゝ四しゝ涼　敦賀　雪花

大ゝゝ幕のゝ秋ゝゝ秋ゝ　ハリマ　ゝ系

月芒かゝゝ秋ゝ新ゝ　仙波　芭水

芙蓉ゝ赤ゝ秋のゆゝ　浜　ゝ谷川

一ゝゝ木ゝ秋ゝ秋のゝし　倭　李朝

秋のゝれ懐ゝ秋のゝれ

夜寒　狼の影を却て見ぬ　敦賀　杉夕

秋寒　秋寒やあらしを住むん　丹羽　三ヶ旌

十月　十月や蔦の完へ寒の雲　蒼々　化羊

冬　御祈の云うてうけて冬の雲　〃　里夕

よ後とひの赤もあるこの雲　角仲

冬の星達よりあのうれもの　也仁　孤都

伊吹山迄江の冬をはめうり　サヌキ　宋我

冬至　冬の鯉の腹子冬の日うれ　甲州　有雙

小英　茶釜ふ乃ふんきひこ小ふ　杉夕

冬紅　冬くれうるの火をく仲の冬

冬菊　軒ばの木を忘れ咲つ菊　比田　迷青

一二輪　牡丹咲きそめ　士仲

大雪といつもまちの伊花　於升

咲うつたくも人の呼を　り伊　宗坊

雪の入　ふをふまうの超へ菴の生ぶ入　二有

宝　松寒一ちれるをまるこ　を仁　仙青

すゝ松　こうくゝ鶴ぬ蛙あり生排　武條

年忘　湖をあるをこうる年ゝすれ　京柳

情うゝ松を伽みうゝ水ゝ　丹望　枝盛

ぬ鏡　ぬくめを命二つをなうゝ　下弦　三顧

[illegible] 井戸
[illegible] 吹朗（ふいに）
[illegible] 馬兎
[illegible] 知久寺
[illegible] 路毋

鬼神部

初年 初年や雪の伏木の[illegible] 山魏（井戸）
孤代 孤代や[illegible] 古井（綾瀬）
生稜 人去ふ流[illegible]川 [illegible]波 [illegible]
[illegible] 杜蓑

[illegible] 士明
[illegible] 家良（波）
[illegible] 宗徳
[illegible] 東杜
[illegible] 石鼎（イヨ）
[illegible] 千新（ちに）

衣服部

夏衣 [illegible] 子規（サヌキ）
夏二ねむ[illegible] [illegible]

出でもえぬ石の間の苔かきへ　赤染衛門
更ぬ二夕たてまつる　肥後
人のまに新起すうらかへ　李人
餅搗ぬ翁りかなれこそるよう　サヌキ　南之
大夢みてうつつ初　夜来
見たきたも中朝臣のうつの　戴雪
徳の者川稲きしみ地る　宗徳
少うつ迄を流しの白しのきかぬ　エト　李玩
夜の杉まに出るもなるぬ雑ぶ　遠物サ
ゆうつ白い出されうの蓮ぶ　尾張　丹雪

調度部

李嶺　須ヶ浦夜を雲なもの明るまを屋　李白
春月を水まこ行うう青すまれ　イキ　綉帆
明るの上ふかけうまきれ　伊丹　楊貴
江巾　梅の白ひをうつまき　江　巾　妃
扇　杉の葉ヶ初きを金まる扇ぶ　巧妙　弓燈
蛟帖　うう集の蛟屋よ入ウ法かう　丹陸　六合
鳴る　鞍の田の明るも電ヶ戻ウ　枝盛
翼翼の新をふるかよる燈　り白　紙初
山ウ多の山ウし雨や明るある　杜若　布席

綱曳　清ちゃんやらしい野郎を風にかけ　古井

飲食及炊火部

芋の餅　松杉を焚きまくるのくくりのきち　雲花

一献酒　蓋とりしき酒の香とうとう一献酒　イヨ文峰

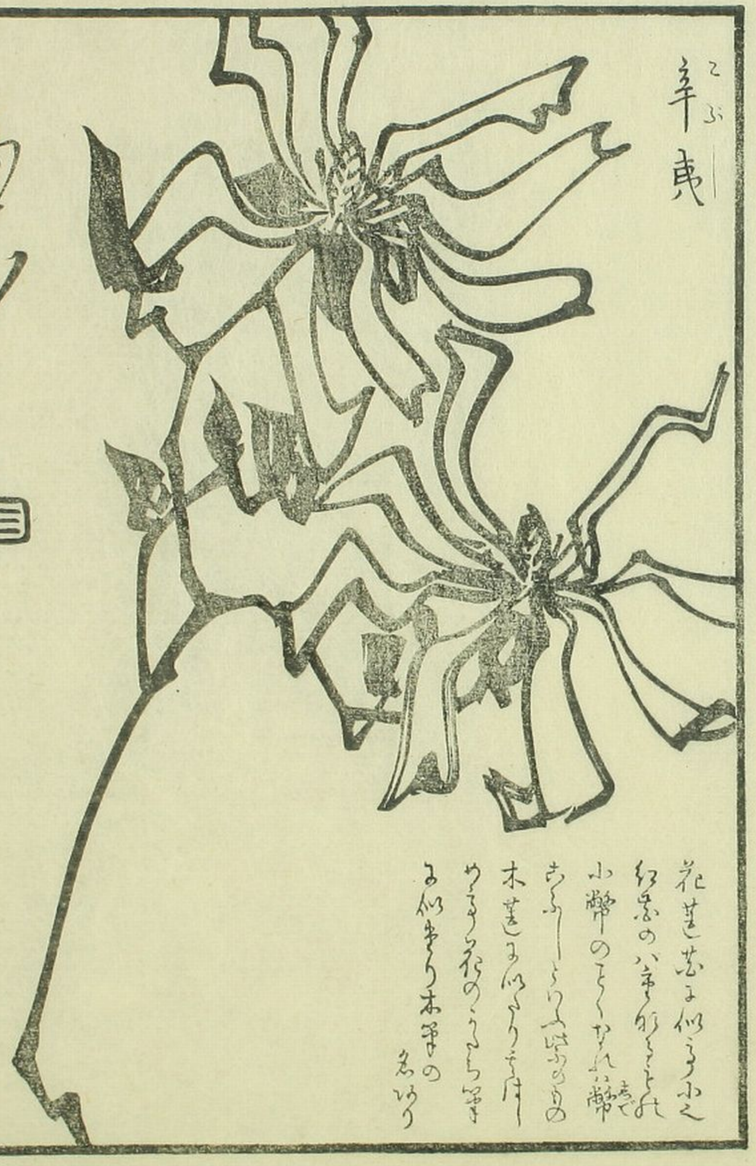
初鰹　松人お朝起きりきり鰹　ヨバリ　越丈

心太　江ふかれい江の水清しんち　名語　左柳

鮒汁　姉くい汁や縄ゑのみい粉ゑ入て　伊丹　井賀

晨　なるれ晨うう寝るハ鶏まえ　扇晨

木之部



辛夷（こぶし）

花蕾芯ゑ似るゑ小之
紅葉の八重形くこれ
小瓣のこくかれ瓣
ちふ一ちり一紫の
木蓮ゑ似るゑ
ゆるゑ花のうち
ゑ似ゑり木蓮の
名ゆり

おうつまに云只花といふは梅のことなりと古今集の
はるたてはけふはじめぬるなり紫神法師の餘材おかくし
いつり源氏物語の系の上おきまるうえのことをいふ
むのうつりなりとへうえとそのうつりあれはまさし
梅をかりうつる花とらへ事
日本紀履中紀天皇市磯池御遊のとき
櫻花落于御盞　此月土月所謂狂花也俗謂帰花
類聚國史弘仁三年二月幸神泉苑賢花樹命文人賦
詩花宴之節始此
暮雨集ヨリ字治殿四条大納言公任卿ヨリ秋のあいつれう

とくれなるとなる論をなるいろまさる劍くらをとて、
第一とは秋を菊をとてまた一とすれば字紅葉なるべきを
大納言梅のいんをけるとまた一とていはるべきとかれは
梅を梅とれ論をなりうる自家の花みなは法はつきあり
計家大納言忘れ一うはとく論しかれをあうう
れたるのあけたのたる梅の絶あるうえをてれかまと
やまさまうるは優まうる作る

花　出る家一　源頼の浦山ちかうき　月秋
ひち笠や一重の花を重ねつく　曙堂
山人うえの餘まくくみうれ　浦吟

年うくを築もあふうし高のれ　東州　西秀

人間をあくまう紀を為る事　杉良

一隙も九隙も花の日和哉　馬光

月和ゝは海中のそれより高の山　法　方六

小すゝしたんをちく茅の井　大津　米友

わくまゝも為の係り和の海ゝ　相雲

花さうう為るこゝろ為ひく　大和　至光

ひゝ法の初るより和の行志賀の花　伊賀　仲乃

川上をいつくや花のあうれよふ　照角

望をひすれ為うひふを花ひう　二有

櫻

見ゆや一章ひくをおろう　二雅

為ゝゝや四方いの為の為ゝ　米良

山水ゝ　恰いうひさくゝの形　万和

朝うけやゆをい過をふちふ櫻　屋烏

友さをふをいく而初さくゝ　大津　烏頂

さくゝ日と安ふさわう紀為ゝは　九郷

多成碎ゝうを宝くふつゝる櫻ゝ　ワカサ　濱子里

杉ゝゝ夜水ゝ為ゝ山をゝ　法隆　九友

ちよ咎ゝをゝ中紀をゝゝ木の為ゝ　ちを　年ゝ

かゝをゝ人間をゝ咲よゝ　伊勢　李朝

清つい[illegible]を櫻とへ[illegible]
一野越を水[illegible]節折ハ山さく　遅櫻女
小禍[illegible]折通りぬ山櫻　九玉
夕[illegible]やさく[illegible]もけ[illegible]　丹波　吳湖
さく[illegible]ちいんを[illegible]山朝[illegible]　アハ　茜峰
朝さく水[illegible]流まり　笹山　鶴美
疲のつく末[illegible]ほよ遅さく　イキ　誘水
ちる[illegible]ゆ[illegible]　士弗
いさ[illegible]人[illegible]を初さく　肥あ　春喬
ちる角[illegible]ハ法[illegible]櫻ぐ　イセ　丘高

ちる櫻[illegible]
小さ[illegible]出る初花[illegible]櫻[illegible]　花お　[illegible]
俗世の[illegible]やよ[illegible]山さく　花の
杉風を杉[illegible]　其督
赤建[illegible]櫻ぐ　當る　志[illegible]女
[illegible]　ちよ　可文
[illegible]月の[illegible]山[illegible]　アハ　兎仙
暖と杉[illegible]　姫升
[illegible]山櫻　サクラ　南之
住人をいつ[illegible]ちる岡　[illegible]　柳栖

[illegible]

若葉

海道くだりの西うつりの葉ぐ　虎邑　尾ノ上

蓋世山とも峰山のうつりぐ　月江

れ〳〵山より奥のもみぢうつる葉ぐ　柳人

都うつりのわたくれもあ一ウ　屋敷　堀口

ウつるなるうつる由実ものみ行し　由陸

まちまち世ものさんすやウつる時　金葉

ぬまちうつり陸れ出眺うつる葉ぐ　五柳　毎山

柳

人うけのかまをうつる柳の枝　島頂

[illegible]　[illegible]

[illegible]柳の[illegible]　[illegible]　三河　柳光

[illegible]柳やとの[illegible]　[illegible]

[illegible]うつる著新しき柳うつる　[illegible]　[illegible]

日は伸うちゆくゆくゆく柳ぜ　[illegible]　百[illegible]

川柳むうきぬうきぬうつる　[illegible]　梅江

[illegible]柳は毎りかゆ[illegible]むぬ野山ぜ　[illegible]　周泰

相の花

[illegible]ものうつれうつるうつるうつる相の花　自乗

紅葉

[illegible]水は毎りうつるうつる[illegible]　千氣

[illegible]　二崔

仏桑花のうゝ脆ゆんなり　エト一茶

春もゆやしけやゆゝ五葉　杉良

一茶　起出る命も一葉の月よかな　丹波杜高

[illegible]　掃ちさまれ門ゝ松の落葉　名古屋蕾月

落葉　きれゝゝ雪よ新すまる落葉　士朱

[illegible]　[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　六〻

海棠　海棠よ[illegible]ゝ[illegible]　サヌキ芝峰

楓　炉[illegible]ゝ炉よりゝゝ[illegible]ゝ楓　カハリ風蓼

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ楓　[illegible]美丸

橘木　さゝ木ゝる松のつく松のゝゝ　[illegible]紙舒

[illegible]のかしは角とつけゝ橘木ぞ　[illegible]葉戸

橘　正月の橘小えゝよ咲ゝける　宮馬

[illegible]　[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ橘　イヤ風也

松の花　ちゝふの乃[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　井左

木の芽　木ゝゝ芽や下結[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　ヌハリ月庵

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　上ヲ愛[illegible]

夏木立　丁ゝゝ[illegible]のゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ木立　蜀園人

茶花　茶の[illegible]乃ひゝきゝゝ[illegible]ゝ八ゝ　西柳

集ゝ部

梅を見て女房たちうく　ヲハリ　岳水

うぐひすやうぐひす又はめうめ　梅の宗　越城

梅のかをりをもとめうめ　梅の花　筑紫　雪平

梅の中やうめのはなくと　杜鵑風　き時　菊也

おろろき野よりうめよ　梅の宗　ハリ　蓼来

又うぐひすはうぐひすうめ　梅の風　伊丹　金蘭

城を出る所よりうめ　宗朱の宗　素水

ちらまてハ木よりおうねを　梅の花　士井

石梅やあまりに咲うめの星　雲花

うぐひすはうぐひすかをりけり水　丹波　万籟

野ゝ梅やまうめ屋ゝ　ハリ　起城

戸あられハ白ひさしうめ　梅の花　アハ芳　水

梅人のうれしうぐひすの宗　作法　武田

石梅よむくゝ起ゝうめ　大和　秋二

紅梅寺野よ咲うめ歩ひうこ　多摩川

現在の寺ゝきやうめよ　十月　士明

梅の中ゝ梅を梅ゝうめ　ハリ　袈裟

まうまうまう　枕よさゆき　梅のう　ハ　玉屑

梅ゝうめ梅　梅　白ひや京の町　梅川男九才　丑ゝ分

大京ゝ梅ゝ　梅ゝ　月舟

青物　きうりや神興むうへる懸うへる　宇知古城更　柘榴

橘　橘の多や　懸の目とりして入る　弓雄

柚　柚の花の二行　二月匂ひ今り　紙子　乗只

柳　ゆひ[illegible]やもよ[illegible]揃て柳の糸　エト　久義

草　草部　及稲穀

けし　雪い未う揃のちすや芥子の花　義賀　五鼎

ふき　みあふなやひら京すす　李人

ようすもしの思ひうけしの花　瓦高

まこしの花ちひまあう兎　士竹

くみむむつうしねあ[illegible]　幾雪

序杖　いまうや杖　竜山　野揚

牡丹　うう牡丹よ人のあうい　化梅　サヌキ

おしうしんや牡丹の花さい　春雪

牡丹よ二条蓑八日おおそ　秀色女

一升の赤の牡丹きはうん　馬兎

花ふ[illegible]しえまう牡丹　角陵

うしの移とよく寄さる牡丹ぐ　士竹

数のなへ牡丹をひうあう　国馬

豆道の風をつうたちもむぐ　村田江

山ゆや牡丹のうは力柱立　井扇

玉虫

扇墨

井筒

重耶

墨

虫

耶

扇

虫

墨

耶

扇

虫

墨

耶

扇

虫

墨

耶

扇

虫

墨

耶

扇

虫

墨

女郎花　堇よりも一夜寒しも女郎花　馬光

大松をうしろめたしや　仲仲

朝顔　あさがほのもつれもつれて花もあるよりの　二葉

木槿　朝の露花やうの咲木槿かな　アキ　篤光

一枝もたゝぬ木槿のゆつくなり　ヲハリ　木兎

蘭　蘭の葉よりも長く鹿ぬく小指かな　桃源

芒　清つくや秋たゝよりの夕芒　仙蓉

彫うけたる色ハ芒の初穂哉　仙中　百丈

菊　寝のもくやまたゝ一輪の菊　起悟

こゝ咲や切戸よ仮宮の法会出　技蓋

きく咲こゝ秋のこゝ紅葉　芝芝

茶代の松ハ松なるましみきくだ　仙中　雪三

蓼の実　こうしと小あはちけハ蓼の実　茶る　杜湖

荻　山うけや畑とまり荻の穂　さ口　乙彩

福寿草　ふく寿草ひとつハ初のこゝろ　弦舟

月ごゝのちゝ旬ふく福寿草　五雲

寒菊　寒やけの朝ふかゝ一寒菊中　寒保　柘榴

ちりのこゝや伊吹おろしの枯ぬる　梅地

寒菊ふこゝ風のこゝれみこゝ　五鼎

こゝの中こゝ松ちゝ一こゝまれ小こゝ　茶る　捕風

[illegible]仲や[illegible]安さ柄杓井戸　ミノ自牧

夏仲　なんなを花さくされと初さくし　エト笠井

夕貝　夕うねやくる畑のさ緒の笠形雪　仙子

ゆうなの清りも物すし業形い　伝みか　帰来

杜美　夕ふあ来る繁を四五枚を杜美　ほの内　月巣

そをさかうに蓮のうけや杜美　エト　國村

ねふう夜の蘇う解れう杜美　号調

かきんそを伝遠よ彩の蓮も制　嘯風

卯系　ちはを咲初系ふ一初の月　遠夷

卯系や汐くうするこの系　波多里

卯の系や蓮てちくくを山の雲　井中

くれをや杉つくれる解の色　井高

戦場系　あちをあれ咲や本下の蓮行う　梔江

青芝　青芝を休むるれしよ初の動き　宗徒

あををを紀月をなれ杜月初仙　サヌキ　成夜

夕牡丹　冬牡丹絵をを行一をう　伝あ　尺城

杜子　かを二度の蓮ふをれハ水の去　大和　笠り来

不藤系　大雪れぬくを咲やつをれ花　井巾

麦　対ゴ一むを初をふや麦の秋をう　アキ　玄蛙

麦を一雨ようくをて宿ハ峰　月彩

園葉部

冬葉

かくとのいくぬ雪とみちつる葉　寄関

岩の火おちちるかくるちる　蓮史（アキ）

朝ねをんるもくるふつむ冬葉　桃初（りん）

みかくるくるくるおの小口の冬葉　井肩

冬一領ゆ冷くぬ　杉良

浦の家おきはしすくるて　肩

眠のきくきくきる篠つる竜　仝

夕くれは形のかくれる秋の月　良

柳おち舟くるは柳つかくふく　良

白露のめれを浅小釈のお　肩

くるおは綾綾の人をかをくる　仝

下京は雀乃取く宗をちく　良

あや笠人苅も疑色をり　仝

更をりはるは汀ぬゆ俤ゆ　肩

嵐宗うくう雨ゆ降こむ　仝

新婚を月のひうもをやむ　良

鶯しの旬は むさける　仝

琴笛法河まれは柳ふひさくき　肩

鄙の忘れうみのなかうとや　肩
咲こうとする梅の花みうれけり　良
春の中ふる雛ぬぎきる　仝
廃墟の魚ぬ目ロも淋しうる　肩
ふうふ元ふいて昭ハるし　仝
動き止む縄のうきんをみの末て　良
馬の口のうて雪てもうる　仝
紙うに切りとうみと山を誠え　肩
月ちうに板木ちうる彫　仝
二の宮ぬ彩うハ紐ち海しうる　良

さんちの新れうつうち雛　良
独第女の小袖をうなる案　肩
何ふ〳〵梵やう句のたきもれ　仝
ちうしと遠の松けいれ句の風　良
世ののはしのセツ過うれ　仝
住ちを赤ぬ橘ちのめいう　肩
うれまたうしう羽をれく　仝
九二年蛟耐をうう言てをわ　良
朝のようとうう和茶つむ舟　仝
赤土のすへうちをうとれうち　肩

茅の穂くらべし宮の夏風　仝

蕗の薹　ふきの花やゝ木履の白紅葉　サヌキ　佳柳

蕣　掘初るそれくれや蕣くれ　昇山

大の河岸より皆薑うれ伏おれ　周仿　雪香

薑　根こきしゝ薑おほしぬ雪の萩　馬岳

子ふついうゝ松や孫の薑　万堂

薑ゆゝ不こゝむゝ松のうけ　相乗

雪うゝ水しゝ河岸ゆゝ薑花のさく　多子　柳私

傘干き八薑つゝぬゝ小坂山　大内　石麻

うつくしき加ゝ肥ゆゝ花薑　フハリ　風蕉

なの花　菜の花やつゝらふしの遠き海の道　丹波　京扇

ちゝもの咲やつゝ紅風の吹　サヌキ　晴宇

海水菜　苦蔵軟

河骨　河骨や淀しゝ水ゆゝ　仙壽　焼刻

藻の花　藻の花や忍ろしき学を一さゝ　名張　紫月

苔　苔ゆゝ花ゆゝ山の雫うゝ　〃　一学

ゐをゆゝ島時ゆゝ苔ゆゝ　伊　方六

水なゝ八淋しゝかゝん苔の花　夫リ　我孝

ゆゝ月うひゝさしゝうゝ出て苔のむ　拙堂

茄子　飛鳥の夢ふる枕ふる初茄子　九玉

竹ふ部

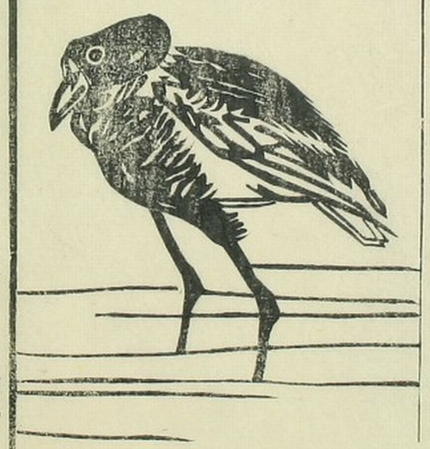
冊樹は　冊樹ふる掃除しまふり耳の穴　武陵（みなぶ）

竹樹ふるなちちかくいかれ蝶のゆめ　〃

羽族部

方目鳥（バンジ）　鷸

大サ燕のめくらまたふる尾
短く脚ふかり脚ぶ一番に
回遊ふる体大小二種ふる大バンと
頸長く頬のちふり白小バンと
頂の冠毛はかくまく浮紅ふる



廿六

鶯

ふふいふふ九ふふの鶯ふふ初音ぶ　千載
鶯ふ初ふれまつの不二ふ山　（ふふ）湖人
ふふふふふの初ふ初音ふ初音ふ　遠人
字ふふ才ふ足ふふふふふ初音ふ　（ふ）蔵推
鶯や初音ふふ先ふふ春ふふ　井角
鶯ふふ先ふふふふふふ梅中き　羅色
ふふふふふ菴の小はふかけふふ　（三ふ）梅先
鶯ふれきぬし夏の山路ふふ野　（丹波）柯亡
家久ふ須も濁ふ彩ふふ嶽の風　桃席
鶯や峠ふふのあふれ巣し就　（エト）成美

うらびれ鶴つるしやあの内　谷の峰　美

笠ゝ人のえみちり山り家　志ゆり女

うろひすの峰止再もあるうゝ　〃　晴堂

笠れ鳥のかゝるや見ぬる　杜蓑

春ゝゝえぬ帰ゝちゝ　井肩

人ゝゝゝゝゝのはちゝゝ　仝

代士碑ゝ年れ行ほ　蓑

月の入るおひゝゝゝ峰の鹿　仝

姫青ゝる蕨をしつゝく　肩

秋ゝゝゝゝねのふゝをかゝゝやり　仝

姓然うゝゝゝ一蚩ハ行く　蓑

小淵ゝゝなゝゝ咲出れ花の梅　仝

はゝゝし数の馬乃年四ふ　肩

増賣とすれ雲ゝつまゝゝ　仝

郭ゝゝゝれ蜂つくるゝり　蓑

多列のゝゝゝかゝる富の岩　仝

行見岩子えゝる　盃　肩

春ゝ衆ハ枝ゝゝゝよくゝれ　仝

社家の注目ゝゝし万歳　蓑

絵ぞめ筆はつるを月おろす　蓼
春ぞとは聞く法師の髪　肩
ゑまぬ仏ぬるの形ちはつれもかな　仝
味噌汁うるれ美濃の入口　蓼
雪降といふぬるとは桜の形　仝
あらしさきに鈴をえる　肩
年弗より千ふ余所の恋　仝
絶う初懸へ代系のあれ　蓼
年ちれ宿おそるる合歓の下　肩
ふねをの人のよれ見ゆと　仝

書かれぬ笠ぬれてうれ　蓼
夏まきの果ま墓ふすふ　仝
駆ゆされ月のゆも雪みち　肩
矢羽の傷もうををけく　仝
小百年まちし桜の股杉う　蓼
雄のちうれおろきの　仝
破き戸れ空をふけ穴うあき　肩
おをうけ山ををくれ中　仝
ふ人のり和とれ朝の花　蓼
杖ちくを一葉一ふさ　仝

百子亭　江の亭よりはくやを見る　扇果

山風のちいもぬまを吹ちぬる　方六

峰の亭　ひらく峰山のあらくら峰る鳥　蜀国人

維子　きうりの形ハ守えぬ維るが　国子

みちくりにはきぬくのやきしの芭　白向　芳麦

響　未くるれ中よ見ぬ響の新　和酒左

寺の亭　楓畑の新まつぬまくりの　寺住　伊尺

乙亭　遊とのをぬるをかしつ　丹

亭在　萩くるや袖よさくるる帰ひくる　寺亭

遊あけまやくに中春の新の定　義六

雀子　鹿鳴くこの人くるすよ雀ぬる　三朴

帰原　山ちや拾ぬくへそう人　原　昭堂

ひくきくり帰ハ泊へうくる丁　出雲　園こ

きくり原くをくれ屋へくるる佛の田　カフツケ　茅丸

加へくを多　坂の拾ハ明る名　軍士

いつまくも家法を原の名別　雪香

きぬ原や京路の雲を震　信中　雪三

原きんくを誰を来をる夕アハ　大和　至光

ちくきくに仏を凝る拾明ハ　サヌキ　石水

星ひくり光くる帰よちくきく　尺艾

る規

桂の戸や面白ぬ月ほとゝぎす　玉叟

寒しき浜松ろる人の冬ゞ　垂迹

郭しゝなるゝ夫の人も松　松嶺

かゝるき馬こるなく冬の影　杉良

杜鵑　春と人のうちうしの　春安

春月の松みるまてふる帰　可文

古山の山ゝ野ゝうわゝこし　嵐雪

むこしんうしまいわこしす　二有

日本ゝゝとゝ行こゝ　姫君

別ゝこゝ冬月春や題詠　青調

湖杭こゝ水原さこうせふちゝきに　野扇

大百姓ゝ小ばはゝ　自乗

ゝゝなきゝ郭ゝ地好よ郭ゝ　五英

帰ゝいゝも夜ゝ郭ゝ紙　二雀

梅春の下や初涼の杜鵑　九玉

山の森よ雲ゝ帰よゝ帰　四南

蛙ゝ家ゝ佛のりちゝきを　李朱（サヌキ）

ゝ月ゝ戸や行ゝ人ゝ郭ゝ　芝峰

さゝゝ人ゝ杭ゝ　琴洲（尼サキ）

家ゝゝ次行ゝ杭ゝ　冬舟

小入道と筑の者やはらきし　金菓
子は佛一百ゐ郭公　耳破（第三）
ちらきる杉ま朝起て白ゐ多ゐ　曙堂
朝起の杉ゐくる扇やちらきし　吹朗
杉風乃中を峰ゐ子ゐ侍　美角女
ちらきる紅ゐ新てけ峰　可省（河内）
杉風の庵ゐかゐはらきし　士朱
千鳥ゐ波ゐ新ゐちらきす　三津人
糸瓜ゐ初ゐ新ゐ宗ゐ　太節（下総）
ふゐ杉ゐ長ゐ新ゐ宗ゐ　砂王（河内）

宗ゐ多ゐのゐ新ゐて峰ゐ　三敦（京都）
すゐ杉ゐ新ゐ出ゐ布　士朱
蕨ゐ木と杉ゐいきけてかゐ多　故友（池田）
ゐきゐ新ゐ水鶏ゐ新　玉史
雨のゐきゐ紙ゐ鶏ゐすゐ　一峰
笠の風ゐ鶏ゐけ月ゐけ　池川
糸鶏ゐふゐ水鶏もゐ青　青人
峰ゐ鶏尾ふゐ杉ゐ　井尤
蟬ゐ月ゐいかけゐ杉ゐ　葵亭（京都）
鶏つゐひや月柄ゐ峰ゐ　六〻

水鶏

鶏

序

作命うとをたはうう　月化
序るやかつし清る秋の蛇　一意
初丁の杉をみるぬぐ　踏舟

野

一筋をほうをしー雪の野　平ぬ月
野の彩山の青竹青ぬ　李仙
千年

夜半に猪蒲ーみをき　遠人
ちぬ火ぬ幼ぬ杉ぬ峰みを　松生
箸洗ふ水のはーあやまちり　北尼
禁ぬもぬ手ぬ浦の自由ぬ　人
ちやや浪ぬをうへ夕みを　烏伯

かのしとぬ彩ぬうをぬ　蕭
ちを　貫
ぬぬ彩ぬもぬ　貫
彫彩　ぬうぬ垣枯ぬをぬ　単流

毛群鱗介異穿部

猫　ぬぬ　猫　猫　星浦
乃白の上をぬぬ猫の毒　吹朔
猫峰や松ぬ中ハ竹ふ赤　五視
孕鹿　孕鹿秋をぬ赤ぬ　高友
蔵角　ぬぬ我ものぬ蔵角　南陵
鹿　鹿峰や初雪ぬ雨の山　山東

鹿笛（シヽフエ）

猟人うしを山中に吹て牡鹿（ヲしか）の
きたるを見て牡鹿をとるまきをし
まきを孫（マゴ）のかを武（ムサ）ぶ入
鹿の皮をハ姫蓑の出来

白魚　白魚やいつくもちれてまれに　公雄
きらら魚やまつ白なしい色深し　柳杖
白魚や素てく門のひとさらり　馬良（丹波）
蝶の後むけうの極のまうまし　三子雄（イキ）
蝶〻や姫の後ふかきもの　良化

蝶〻ふや畑のなりもの桃の色　其智
蝶〻ふ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ　方雄
蝶〻ぬと杉ふかハ蝶ぶ　晩堂
蝶　蝶　杉の風の絵のあり
蝶〻ぬと杉ふかハ蝶ぶ　晩堂
ゆ〻ゆ〻の俳小口より初　蝶　芝峰
蝶牛　蝶牛ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　垣根草　ヲハリ　槐蕉
蝶　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ほ　蒼虬
ふしの蝶彫を出ら新よ入ん　文蕉
蝶一ツ蝶〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　タンゴ　麿謹
蝶蝶　蝶蝶や蝶〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ぬ　文曉

蚊

種蒔かぬ水なし多和の浦　拙源

百のもや雲は霧のあくふくかぜ　里竜

蓑

きりしぶ袖もぬるるあけぐ　[illegible]仕洲

かすみも霞るうくもをの紫　弓城

かげの数を分るはやあれ雲　遠人

雲ちさまのひう大きしふ雲　芳雀

雲ふかけ[illegible]にのうる竜　多和川

[illegible]の後学校ふまうう

うつるる橋のうえを表えせ　吾岸

雲も数を更るちまのけうる心　市紅

初かうる雲ぬるぬまて消やきを　光仙

[illegible]ふかうる紅の二つを数のけり　路舟

春雲は山ふかうふかうてふほう　[illegible]八り　鏡真

酒をうる京八戸さしたうる雲　李朝

定めなく立る雲は風を落る　井左

志[illegible]　[illegible]路のむる百　井肩

仏房のうるし燈を鉢焼く　仝

ひうし[illegible]江の山を足を出る　左

揚雲雀二なめを月のうるる　仝

延若さくらなんの雲もれし　肩

那須利もなかるしふちるぬ菴の長　肩
簑つうんてをるを洗ふく　た
ふんら橋ほ柳の淀も然のうち　肩
屑の笠ほちるかちうる　た
時雨のひうつく方を蒐笠の里　肩
まるさ瓢をあうぼいまふる　た
十あ〻祢の月ほ柳を袖ふうけ　肩
家と人とよ萩うゐつく　た
大つのうちハ彼るも舎利ゥ行　肩
梦中の姫ちきうるもぬ　た

百姓の隙ふるる花の色　肩
膳よくくへう虎杖を折る　た
芹の多ほ鴻を洗ひ川へ刈　今
志賀の島乃るを連て飛ふ　肩
金神〻連出ほ京の淀走ひ　た
人のよろうふ牡丹一株　肩
切とうつよ女ふふれちいさ〻や　た
墨ふしと秋く青月　肩
いな妻に志ろうしちさ松をちち　た
笛も吹〻ま迄る精灵　肩

牧とおい鈴の柳へも風う吹　左

橋の奉うま　孝　蛤　肩

古の里乃うめ　洲うま月沈　左

あ寒ゝ　橋の田ひゝゝ　肩

寒ゝ　ちうゝ足うう雪の峰　仝

南へむきし　小ゐ　疎うま　左

見売の舟し　延のさむし　さハ　肩

雪こうな　ふしう　莖　かのめく　左

花すゝうハ　おもゝし　絵ふより　肩

山菱　叩くハ寅　社　朔日　左

附録

人新の紙　もうけ　三月　雨　因幡　雷河

山水うり　境の　流　はゝ　ゝ　仝

桔うう　立う　見　桔ゝ　ゝ　冬　萩　〃　箱　光

暖　ゝ　ゝ　月　ゝ　ゝ　幸　社　命　仝

橋　ゝ　ゝ　橋　月　桔　小　ゝ　〃　峠　丈

鞠　社　ゝ　馬　ゝ　ゝ　梅　月　仝

ゝ　ゝ　ゝ　峰　ぬ　桔　ハ　の　蛙　仝

三　月　の　か　ゝ　ゝ　ゝ　柳　ゝ　〃　ぬ　水

桔　ふ　ん　ゝ　姫　の　息　ゝ　ゝ　ゝ　籠　姫

芦吹やもしほ草の冬ふかう水　他家陪山　吐湖

やう〳〵時の江のうつる夏の月　〃　未兎

蝙蝠の出る夜佛ぬけうろう　〃　可粒

秋の〳〵風より起る蓮の葉　丹後　秋琴

ちる〳〵國ゐこの色ひろう梅ぢ　ハリて　廣ぬ

雪ふん〳〵降やふかの神いのり　リ作　國丸

落ぬ上ひ雲ふ雲ふ星　二ツ　法性　玉之

咲ふ〳〵火ゐ夏ふかけう東山　〃　尾花

ちる〳〵時手後ふう雲ん　拾換ぢ　サヌキ　春子

春之部

對州社

初ふ〳〵やふん〳〵ふ松ふ春ふ来る　妙柳

ふの水ふ氣ふ是ふ〳〵ふ海ふ〳〵ふ　薫山

ち雪ふ〳〵ふ海の春ふ〳〵ふ　紀子

小家ふ〳〵ふ〳〵や梅ふ海て梅の花　移住更　柳ぢ

白ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ月　李溪

夕りふ〳〵ふ山井のふ〳〵ふ柳ふ　夏山

蓑笠ふ〳〵ふけふ〳〵ふ雨ふ〳〵ふ　小ふ紀

初ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ　浦風

山ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ明ふ〳〵ふ〳〵ふ　夏岩

一えもいはぬ梅の香　自遊女
ふけゆく人や梅とあるまで　軍雪
まがきの花と人とは月夜哉　只山
ちるとなく立まうきは空　以柳
ちらしし柳をくれの時雨　玉芝
まつ風や行袖ぬいくるまで　ヨフコ　意柳
猫の恋ふるまを深みすの夜之月　紙芳　小楊
日は暮の芒ゆらぬ夕ぐれ　ヨハリ　楚山
うゆくまきりぬ紅葉の色　俳仙　宿江
山水をいつとはなしに更衣　宇佐崎　丸茅

井眉菴編集目録

花鳥文庫　俳年三月井眉菴四季俳仙出詠ヲ以テ六月出板逝去ヲ遂ル如執筆ヲ不入

正月日記

芦宝集

四季文集　古人々人の文章ハ一出序跋句帖の序

四季類題集　芭蕉翁おほよう誘ふの紫句并月並ゑる彩のおの句南舟法師の句ぬ古の露句彩色うゑ一年ハ四季集ハ来人　成年四季彩題集出来

七部集解　近刻

深川集解　同